

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 景気ウォッチャー調査(2013年12月)

発表日 2014年1月14日(火)

～駆け込み需要期待で景況感は良好～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 星野 卓也

TEL : 03-5221-4526

	景気の現状判断(方向性) 合計					景気の先行き判断(方向性) 合計				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2013年	49.5	52.4	48.3	50.2	55.3	56.5	56.7	55.4	58.6	58.9
	53.2	53.3	51.7	55.0	58.6	57.7	56.6	57.0	59.1	59.3
	57.3	52.6	56.9	56.1	63.1	57.5	54.9	57.0	57.3	60.9
	56.5	52.3	55.5	56.7	62.3	57.8	53.6	56.8	58.8	61.8
	55.7	53.7	54.4	57.1	61.7	56.2	53.1	55.0	57.6	61.0
	53.0	52.0	52.2	52.8	58.0	53.6	52.0	52.6	54.8	57.5
	52.3	51.0	50.6	54.5	58.1	53.6	53.4	52.0	56.1	58.6
	51.2	51.6	49.3	53.3	58.7	51.2	53.0	49.6	53.4	57.0
	52.8	54.6	50.6	55.9	60.3	54.2	56.1	52.9	55.2	60.2
	51.8	55.1	49.2	54.8	61.6	54.5	57.2	53.7	54.6	59.4
	53.5	56.9	51.3	56.3	61.3	54.8	58.7	53.8	55.5	59.7
	55.7	56.9	53.1	60.4	62.5	54.7	57.4	53.4	56.2	60.0

(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

○先行き判断D Iは低下したが、水準は十分に高い

内閣府から発表された2013年12月の景気ウォッチャー調査(調査期間:12月25日～月末)では、現状判断D Iが55.7(前月差+2.2pt)、先行き判断D Iは54.7(同▲0.1pt)となった(原数値)。季節調整値¹をみると、現状判断D Iは前月から横ばい、先行き判断D Iは前月差▲1.3ptの低下となっている。もっとも、現状・先行き判断D Iともに水準自体は高く、企業の景況感は依然良好とみて差し支えない。

○現状:駆け込み需要やボーナス増加が追い風。建設分野では人手不足を指摘する声が目立つ

現状判断D I(原数値)の内訳をみると、家計関連D Iが前月差+1.8pt、企業関連D Iが同+4.1pt、雇用関連D Iが同+1.2ptとなった。

現状判断に関するコメントをみると、「消費税増税前の駆け込み需要による、高額な美術品や指輪・ネックレス等の宝飾品の動きが良い(四国=百貨店)」、「消費税増税の影響もあり大幅に販売台数が増加しており、例年厳しい12月とは思えない販売台数を記録している(東海=乗用車販売店)」と、消費税率引き上げ前の駆け込み需要に対する言及が目立ったことが特徴的である。加えて、「客先でもボーナスが前年より多く出ているようで、自動車や家を購入する人が増えている(東海=輸送用機械器具製造業)」など、ボーナスの増加が個人消費の押し上げに繋がっているとするコメントも複数あった。

一方、「9月末までの駆け込み受注物件の着工が遅れており、職人の人件費、建築資材のコストアップは、今後も続くことが予想されるが、受注価格には転嫁できないため、利益率の低下は避けられない(中国=建

¹2013年7月分より、全国の現状判断D I・先行き判断D I・現状水準判断D Iの3系列において、季節調整値の公表が行われている。

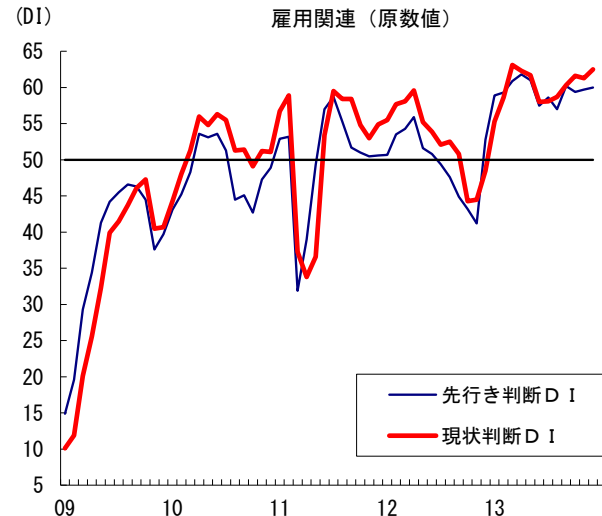
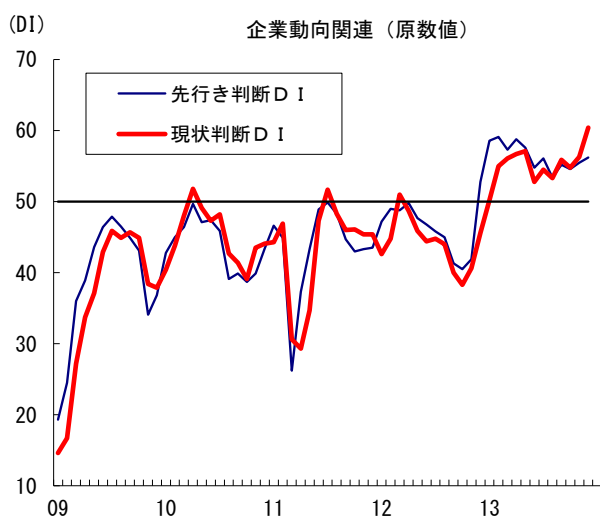
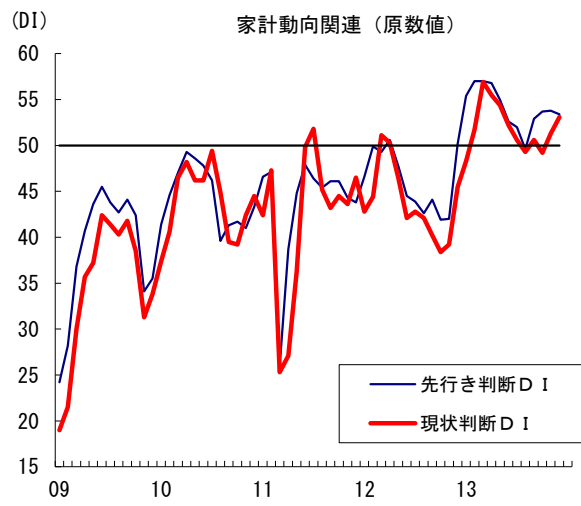
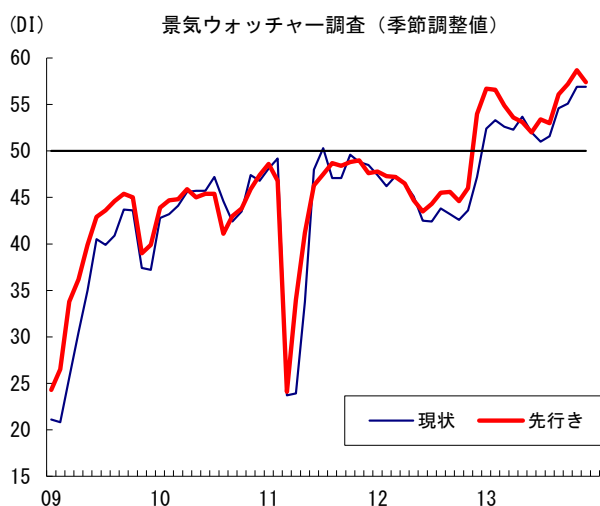
設業)」など、建築関連業種では人手や資材の不足を指摘するコメントが多い。住宅建設や公共工事の増加が背景にあるようだ。

○先行き：駆け込み需要期待がプラス要因に

先行き判断D Iの内訳をみると、家計関連D Iが前月差▲0.4pt、企業関連D Iが同+0.7pt、雇用関連D Iが同+0.3ptであった。

先行き判断に関するコメントをみると、「消費税増税前の駆け込み需要とも相まって3月末までは景気は上向きに推移するのではないか（東北＝新聞社〔求人広告〕）」、「消費税増税前の駆け込み需要で、年末から年度末まで、大型商品や高単価商品の動きが活発になる。住宅購入に伴う家電品の需要も高まる（中国＝家電量販店）」といったように、現状判断と同様、消費税率引き上げ前の駆け込み需要への期待が景況感を押し上げている。

ただし、「消費税増税直前となり、個人消費は耐久消費財への支出のため、高単価な外食には抑制的になると思われる（東海＝高級レストラン）」、「消費税増税までのカウントダウンが始まり、耐久消費財などにお金流れるため、不要不急の買い物は後回しとなってくる（近畿＝旅行代理店）」といったように、サービス業などでは駆け込み需要が耐久財に集中することが懸念されている。駆け込み需要への期待も業種によってまちまちなようだ。



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」